

栄養支援チーム(NST)の活動紹介

栄養支援チーム事務局・NST専門療法士 宮澤誠子

病棟回診前のカンファレンス風景



NHK朝ドラ「おむすび」でも登場した、NST（委員会）は、平成17年に発足し活動しているチーム医療です。下部組織に「摂食嚥下WG」「経管経腸栄養WG」があり、メンバーは田沼副院長を委員長として、小児科医師、歯科医師、看護師（摂食嚥下障害看護認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師含む）、薬剤師、言語聴覚師、管理栄養士の計11名です。

委員会は毎月第2木曜に定期開催し、各WGの活動報告のほか、各病棟への回診もあわせて実施します。回診症例は、利用者の高齢化に伴い摂食嚥下機能が低下し、様々な合併症を有する傾向にあるため対応に苦慮することもあります。カンファレンスでは電子カルテのデータを確認しながら多職種で活発な討議が行われます。回診時には担当医及びプライマリ看護師からも貴重な情報を得ることができ、栄養管理改善策への提案に結びつけることができています。



病棟へ回診中

病棟へ回診中



＜NST介入依頼内容例＞
主に栄養状態悪化に関わる
①体重調整関係
（体重減少or増加傾向）
②目標摂取栄養量の設定
③血液検査データ不良に対
する栄養メニューの相談、等

「利用者の栄養管理でお困りのことは、私たちに相談してください！」
(事務局：栄養科)



〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042 (323) 5115
FAX 042 (322) 6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第567号 発行日 令和7年3月31日



令和6年度 通園卒・退園式

通園担当（卒園式担当）



3月27日、春の暖かい日差しの中、卒・退園式を行いました。ご両親、ごきょうだいのほか、祖父母の皆様にも式に参加していただくことができ、卒退園児合わせて11名を賑やかに送り出しました。

式当日、普段とは違う雰囲気緊張した表情を見せていた卒退園児でしたが、在園児の顔を見ると安心したように普段の調子を取り戻していました。証書授与の際は、小森小児科部長の前まで進んでいき証書を受け取る卒退園児たち。とても頼もしかったです。成長の記録をまとめたスライドショーでは、時に笑い、時に涙しながら、通園で過ごした日々を振り返りました。素敵なお兄さん・お姉さんに成長したことを、保護者の方々と共有し喜び合うことができました。

新しい場所、新しいお友だちとの出会いを通して、それぞれの力をぐんぐん伸ばして
 いてください。笑顔いっぱいでご過ごせるよう、祈っています。

令和6年度卒業式

くぬぎ分教室 主任教諭 片岡雅彦



東京都立府中けやきの森学園高等部の卒業式が3月19日に、小学部・中学部卒業式が3月24日に府中市朝日町の本校で行われました。くぬぎ分教室からもそれぞれの学部の卒業生が参加し、たくさんの御来賓、保護者、在校生、教員が見守る中、壇上に上がり校長先生から直接卒業証書を受け取ることができました。

高等部卒業式の日には雪が降りしきる中、センターをバスで出発し無事本校に到着することができました。小学部・中学部卒業式の日には好天に恵まれ、行きのバスの中は楽しいドライブ気分でした。御多忙の中センター関係者の皆様の多大な御協力のお陰で、本校の卒業式に参加することができました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



お楽しみ会「お雛福笑い」

1 B病棟 福祉職



2月28日（金）にお楽しみ会を開催しました。桃の節句に合わせて「お雛福笑い」と題したゲームを行いました、2チームに分かれてトランプの「ハイ&ロウ」で勝負し各パーツを取り合い、お雛様を完成させます。選べるパーツは定番の雅な衣装や装具のほか、質素な衣装やお雛様に関係ない縫いぐるみや一升瓶も。

Aチームがリードする中、最後にぼんぼりをかけた勝負でようやく選択権を得たBチームがぼんぼりを手に入れ、Aチームがかぼちゃのパーツになるという大波乱な展開となりました。意外に統一感のあるお雛様が完成し、「ハイ&ロウ」の勝敗で盛り上がり、選んだパーツで仕上がっていくお雛様を見て、楽しい笑い声と笑顔で福を呼び込むことができました。



はじめてのバスハイク！！

2 C病棟 村元 佐和美

2 C病棟は、3月12日（水）に立川防災館に行ってきました。今回バスハイクに参加された利用者3名は、入所されてから初めてのバスハイクでした。皆さんバスに乗り込むと、周囲をキョロキョロと見回し、窓の外をジッと見たり、職員を見つめたりと、少し不安はあるようでしたが、動き出すと窓から景色をよく見ておられました。

防災館に到着し、最初にはシアターで防災のアニメを見ました。その後は防災クイズに答えたり、消防士の衣装をまとして記念撮影をしたりと、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

帰りの時間になり、バスに乗って帰ることを伝えるとやや表情が曇り、もっと館内を回りたいというお気持ちがひしひしと伝わってきました。しかしバスに乗り込むと、窓から景色を見たり、音楽を聞いて笑顔を見せたりと切り替えて楽しく帰ることができました。「これからいろんなところにお出かけしましょう」と伝えると、笑顔を返して下さいました。早く次回が来ないかなと思えるバスハイクになりました。



生活療育支援科人材育成の取り組み

生活療育支援科（病棟福祉担当） 柏木奈穂美

チューターに優しく指導してもらっています



病棟に勤務する福祉職は、11月号で紹介した看護科人材育成と同じように「福祉職キャリアラダー」を作成し、段階的に研修を組み立てています。カリキュラムは採用1年目を基礎Ⅰ、2年目を基礎Ⅱとし、以降はジェネラルとしています。

基礎の2年間は、療育センターで働く福祉職として必要な知識を身に着けます。そのために「看護と同じ様に学ぶ必要のある内容」～例えば、感染管理や安全管理については、看護師と一緒に研修を受けています。また、福祉職同士の交流のため、通所・通園での1日体験研修も行っています。

福祉職の人事異動は児童福祉関係施設からの転入もあります。そのため、介護の実践経験の少ない職員もいます。病棟配属の職員は日常生活支援も行うため、摂食・嚥下や呼吸管理などに関する研修はそれぞれの認定看護師へ、薬剤に関する研修は外来看護師長へ講義を依頼しています。ポジショニングは個別性が高いので、病棟の看護師やリハビリテーション職員に教えてもらうようにしています。このように他職種

の協力も得ながらセンターで必要な知識を学んでいます。福祉職の研修として大切に考えているのは「福祉の視点」です。日中活動の充実を図るため、実践力の向上を目的として、昨年度よりミュージックケア協会の方を招いての研修も行っています。利用者の方と一緒にミュージックケアを実践し実技を身に着け、質疑応答で論理を学んでいます。次年度も実践的な研修を複数取り入れ、より活動の幅を広げることができれば良いと考えています。また、福祉職の専門性として大切な利用者との関わり方を学ぶため、倫理観についても研修を行っています。基礎とジェネラルが合同で行うことで、経験値に違いがあるからこそお互いの考え方を共有し、利用者の方へ寄り添う気持ちについて、考えを深めることができるのではないかと考えています。



指導を受けながらですが、行事で皆さんに楽しい時間を提供することができました

初の出張販売会を開催しました

入所中の利用者に施設内で買い物を楽しんでもらいたけとの思いから、このたび2月28日に初めての「出張販売会」を実施しました。衣類や食品、衛生用品まで様々な商品が並び、多目的ホールはまるでデパートのよう。来店した利用者のご家族は、品物を見て回ったり手に取ったりしてお買い物を楽しまれていました。予定数を遥かに超える58組もの利用者に来場いただき、初の出張販売会は大盛況でした。来年度も開催する予定ですので、ぜひまたご利用ください。

